



## 新年の御挨拶

米沢市立病院 病院長 渡邊孝男



地域医療連携で大変お世話になっております、三師会の皆様並びに医療介護福祉関係の皆様、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

さて、米沢市立病院は昭和33年（1958年）4月の開設から新年度で60周年を迎えることとなります。医療や介護、福祉のサービスの質は当院開設当時と比べれば格段に向上していますが、近年の少子高齢化・人口減少や生活環境の変化などにより求められるサービスが変化してきており、また担い手である保健医療介護福祉の人材不足・地域偏在も深刻になってきております。

これらの課題を解決すべく、昨年9月に「山形県地域医療構想」が策定され、置賜地域の各医療機関の医療機能分化と連携強化並びに在宅医療や訪問看護提供体制の充実が求められました。このような状況を踏まえ、昨年「米沢市医療連携あり方検討委員会」が6回開催され、意見書が取りまとめられました。これを受けて米沢市としての方針が示され、今後、当院と三友堂病院は急性期・回復期医療の機能分化・連携強化を進め、2023年度までに同時建替えをめざすことになりました。

また、米沢市は「地域包括ケアシステム」の構築にも力を注いでおり、この度「高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画（平成30年度から3年間）」案を策定し、在宅医療や訪問看護・介護の更なる充実にも取り組むことになりました。地域医療連携は、ますます重要性を増すこととなります。

当院も更に努力をしてみたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

# 女性の排尿の悩みと治療法について

外科系部長 兼 泌尿器科・女性泌尿器科長 長岡 明

泌尿器科は男性の科とイメージされている方が少なくないと思われませんが、男女とも排尿することは同じです。

女性の排尿の問題を扱う女性泌尿器科では、頻尿（ちかい）や尿失禁（もれる）、骨盤臓器脱（出にくい）といった中高年女性の排尿に関する悩み・困り事を治療します。

これらの排尿の問題のために、外出を控えたり、旅行などを諦めたりする女性が実は少なくないのです。

頻尿（ちかい）の代表的疾患に過活動膀胱があります。過活動膀胱は急に我慢出来ないほどの強い尿意（尿意切迫感といいます。）が起こり、急にトイレに行きたくなり我慢が効かず漏らしたりする病気です。40歳以上の男女の8人に1人がこの症状をもつといわれ、主にお薬で治療します。

尿失禁（もれる）には、過活動膀胱の他に腹圧性尿失禁があります。腹圧性尿失禁は、咳や運動等でお腹に力が入ったときに尿がもれるもので女性では最も多いものです。軽症では減量や体操で治療しますが、重症例ではスリング手術（TOT手術・TVT手術）を行うことで治療します。

骨盤臓器脱（出にくい）は、出産、加齢、肥満などで骨盤を支える筋肉（骨盤底筋）が緩み膀胱や子宮、直腸が下がり、尿の出にくさ、陰部の違和感を感じる病気です。保存的にリングペッサリーを用い治療を行うこともありますが、当科ではメッシュを用いた経膣的手術（TVM手術）や腹腔鏡手術を行うことで治療を行っています。また、高齢の方には侵襲の少ない膣閉鎖術を行っております。

当院では、これら女性の排尿の悩みに対して専門外来を開設して薬物療法から手術療法に至るまで積極的に専門的治療を行っています。排尿に関してお困りの女性は遠慮なく女性外来にご相談ください。



長岡医師とスタッフ



# 臨床初期研修総括

臨床初期研修医 小野寺 啓 (東北大学 平成 28 年卒)

米沢市立病院での臨床初期研修も 2 年目の冬を迎え、残りわずかとなりました。4 月からは東北大学に戻って糖尿病を専攻することになっています。一昨年の 4 月、不安と期待を抱えながら異国の地に足を踏み入れたことを懐かしく思い出します。こちらの場をお借りして、早めの総括(?)をさせていただきます。

社会人経験が 10 年ほどある私は、大きな病院で制約の多い画一的な研修をするよりは、中規模で自由度の高い主体性重視の研修を考えていました。顔と名前が一致して、なんとか覚えられる範囲の職場のほうが、コミュニケーションもスムーズに行えて、仕事の能率も上がるし、自分の個性を活かせると考えていたからです。これまで、公立置賜総合病院や会津医療センターなど、当院よりも規模の大きな病院でも短期間の研修をさせていただきましたが、大きな病院になればなるほど医師間の連携は悪く、検査にも時間が掛かり、全体の判断が遅れ、素早い動きが取りにくい、という弊害もあります。その点、当院は人手不足から医師の仲を良くせざるを得ない状況にあり、些末な人間関係で困るような事態はありませんでした。アットホームな雰囲気、親切な看護師やスタッフの方々に助けられ、ストレスを感じる事が少なく過ごせたのはなによりでした。

また、初期研修医の立場から、いくつか提案もさせていただきました。病院のトップに近い先生方に直接意見を申し上げる場があり、それを受け入れて貰えるというのはとても幸せな環境です。研修医の数が少なく情報が少ないためか、当院の研修指導体制にはやや現代化が遅れていた面があったかと思いますが、実習に来るやる気のある学生さんには親切に対応し、ACLS や JATEC など外部講習参加の敷居を下げ、CV 挿入など手技機会の増加につながっていけば、総合診療と救急医療の充実した当院は、研修医の数を少しずつ増やしていくと思います。

さて、それでは当院での初期研修、ぶっちゃけ本音ではどうだったかと申しますと、若い患者さんが少ないのは不満でした。病院に来るのは平均すると 80 代以上の高齢者が圧倒的に多く、米沢市民はいったい何処に行っているのかと不思議に思います。特に当院の ICU、外科、循環器の診療レベルはかなり高いと思うので、米沢市民が自分達の病院を利用しないのは非常に勿体ないです。いずれできる新しい病院が、市民にもっと利用され愛される病院になることを祈願して、筆を置かせていただきます。40 歳過ぎのオッサンの面倒を見ていただき、誠にありがとうございました。



小野寺医師は「レジナビフェア東京 2017」当院の広告塔として大活躍されました。(左:小野寺医師モデルのポスター)

# 米沢市在宅医療・介護連携支援センター活動中！

平成29年4月より、医療機関や介護関係者からの在宅医療・介護に関する相談窓口として、「米沢市在宅医療・介護連携支援センター」を米沢市立病院地域医療連携室内に開設いたしました。今後、高齢者の人口が増大していく中で、住み慣れた地域で安心して医療と介護サービス等を受け、自分らしい生活が出来るように、在宅医療と介護を結びつけるコーディネーターを配置し、在宅医療・介護に関する相談支援、お住まいの地域の医療資源情報の提供、各種講演会の開催等、在宅療養環境のサポートを行っております。

主な事業として、平成29年9月1日には、『病院でも家でも施設でも満足して大往生する10のコツ』と題して、長尾クリニック院長の長尾和宏先生による公開講演会を開催しました。関係者および市民の方合わせて412名の参加とご好評をいただきました。

どうぞお気軽にご相談ください。

## 【米沢市在宅医療・介護連携支援センター】

電話 0238-22-2450 内線4216  
平日 8:30 ~ 17:15 / 土曜・日曜・祝日休み



## ☆市民公開セミナー報告☆

平成29年7月から11月にかけて全6回開催され、ご好評をいただきました。ありがとうございました。



## 4コマ「つれづれ連携室」2



編集 米沢市立病院 地域医療連携室  
〒992-8502 山形県米沢市相生町6番36号  
(代表) TEL 0238-22-2450 / FAX 0238-22-2876  
(連携室) TEL 0238-22-2613 / FAX 0238-22-2624